

岡谷市議会 経済建設委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：平成25年10月7日（月）～10日（木）

2. 調査事項（視察先）
 - （1）老朽危険空き家対策補助金及びひめじ古民家・町家情報バンクについて
（兵庫県 姫路市）

 - （2）農業6次産業化推進事業について
（兵庫県 たつの市）

 - （3）商工振興拠点施設整備促進事業について
（大阪府 八尾市）

 - （4）自転車道等の整備の取り組みについて
（大阪府 堺市）

3. 視察参加委員

委員長	武井茂夫
副委員長	三沢一友
委員	武居光宏
委員	八木敏郎
委員	久保田高正
委員	渡辺太郎

【視察地報告】

1. 調査事項

老朽危険空き家対策補助金及びひめじ古民家・町家情報バンクについて

(兵庫県 姫路市)

人口：約535,800人 面積：約534km²

(視察事項)

老朽危険空き家対策として、自治会により実施される空き家の解体撤去工事について、費用の一部を補助する制度及び古民家、町家の流通を促進し、建物・町並みの保全と地域活性化を目標に、設置されている「ひめじ古民家・町家情報バンク」を視察した。

2. 視察日時 平成25年10月7日(月) 14:00～16:00

3. 参加者の所感

- ・老朽危険空き家対策補助金について
 - 3年で3件との実績だが、今後に向けて1つずつ解決するための、試験的な方法と考えればやむを得ないのかもしれない。
 - 岡谷市での実施を考えた場合、実現出来ないことではないが、自治会がそこまで協力できるかどうかが一番の課題だ。また、市が間に入って区が係わるとしても、個人住宅の取り壊しに市の予算を支出できるかが課題になると思う。
 - 自治会の関与が特徴的である。全国どこでも空き家対策が課題であり、地域の特徴を捉えながら空き家の解消に取り組んでいることが参考になった。
- ・ひめじ古民家・町家情報バンクについて
 - 岡谷の製糸産業時代の古い建物を登録し、持ち主の都合で壊してしまうような場合に、財政的な課題もあるが、移転を含めて保存できたらと思う。
 - 環境保存をどこまで市民や法人に協力をお願いできるのか難しい面がある。行政側から改築や取り壊しに際し、要請することは大切である。
 - 町並みのモデルになる地区を決めて、市内に広めていくことが必要である。
 - 市職員の案内で街並みの視察をしたが、様々な工夫・改修がなされており、さすが文化遺産の街という重みはあった。シルクの街として、岡谷市を重ねた場合、市内にシルクの遺産が点在している点が街並み整備の課題と感じた。
 - 姫路城を大切にしたい街づくりの一端を感じた。岡谷市においても、地域の特性を生かした、文化のある街を大切にすることが急務である。
 - 古民家活用への関心のある人とのマッチングが前提となっている。岡谷市は、保存すべき歴史的な景観地区は無いが、空き家対策については、利用者にどれだけの利便性を与えられるかがポイントとなってくる。空き家問題解決の困難さを改めて痛感させられた点が大きな収穫であった。

【視察地報告】

1. 調査事項

農業6次産業化推進事業について（兵庫県 たつの市）

人口：約80,100人 面積：約211km²

（視察事項）

農家の高齢化、後継者不足等の農業の構造的問題に対して、農業の組織化に取り組んでいる。

作物の栽培だけではなく、加工品の生産、販売、直売所運営等、6次産業化の取り組みについて視察をした。

2. 視察日時 平成25年10月8日（火）10：00～12：00

3. 参加者の所感

- たつの市の取り組み、指導もさることながら、脱サラして創業を始めた営農組織代表者のやる気には敬服した。気候的にも恵まれ、農地が広大で担い手のいることも条件が揃っていると感じた。
- 農業による自立は、その地区の特産物にいかにか付加価値をつけるか。6次産業化の特例を受ける努力は、中心になる人物の熱意が大切であると感じた。
- 地場産業の商品化は岡谷の特産物が何かを考えてみたとき、絹、味噌、工業製品等工夫すればできないことはないと思った。
- 岡谷ブランド事業の発展化として、参考となる部分がある。また蚕糸博物館の活用の方角性を決めていく参考になるのではないかな。
- 6次産業は、理論的には良いのだろうと思うが、生産者が、加工や販売まで行うのは容易なことではないと感じた。相当な情熱と努力が必要であり簡単にはいかないことだと思う。
- 岡谷市においても、遊休荒廃農地などを利用し、後継者不足となっている農家を集め、組織化することも農業の活性化につながるのではないかな。また、地産物を受入れてくれる企業があることも組織化して運営できる大事な要素になってくると思う。
- 農業生産法人は地域が主体の農業の株式会社というべきものであり、日本農業の今後の一つの姿である。今後の動向には興味深いものがある。
岡谷市においても、味噌や生糸の製品加工から販売へ考えられることはかなりあるのではないかな。岡谷市は工業のまちであるが、食品の加工業にも考えを改め、取り組む価値が大いにあると考える。

【視察地報告】

1. 調査事項

商工振興拠点施設整備促進事業について（大阪府 八尾市）

人口：271,100人 面積：42k m²

（視察事項）

商工振興拠点施設は、市と商工会議所の合築施設であり、技術・製品開発等の各種相談事業のワンストップサービスを実施している。

新たな産業政策の企画立案機能強化、新産業・新技術等の育成支援、各種相談・支援機能の強化への取り組みについて視察をした。

2. 視察日時 平成25年10月9日（水）10：00～12：00

3. 参加者の所感

- 大きなメーカーと中小企業の有るまちは、岡谷市と似ている。人口減少の悩みは同じであるが、企業の海外流出への対応として、本社や研究所、主工場を市内に置くことを条件に厳格にチェックし補助制度を運用していることは参考となった。
- 岡谷市の施策と同類のものであるが、岡谷市は、補助金の成果や海外流出させないチェックが必要。また、どんなに小さな企業に対しても、経営相談や技術革新に手を尽くしていくことが必要と感じた。
- 市補助金を受けている企業の話も聞かせていただき、企業間でネットワークを作り、新しい商品づくりを1社だけの利益にならないように研究を行っている。リスクの少ない簡素な申請による小額の融資制度は良いとのことで、大変参考になった。
- 中小企業が集積している工業都市の岡谷市に共通した部分がたくさんあり参考になった。地域特性や市民性を考慮した行政のきめ細かな支援が大切だと感じた。
- 産業に関して元気な企業が多く、しかも、特定業種ではなく広範にわたっている感じがした。また、岡谷の産業構造と似ており、岡谷とも交流のある現地企業の話は、親しみを持つとともに参考となるものであった。

【視察地報告】

1. 調査事項

自転車道等の整備の取り組みについて（大阪府 堺市）

人口：約841,300人 面積：約150km²

（視察事項）

環境負荷の少ない都市交通の重要な手段である自転車の通行空間の連続性を確保したネットワークを形成することで、自転車による回遊性や快適性を高めている。

歩行者及び自転車利用者の安全確保のための、自転車道等の整備の取り組みについて視察をした。

2. 視察日時 平成25年10月10日（木）9：30～11：30

3. 参加者の所感

- 現在の岡谷市に当てはめた場合、拡幅の終わった県道下諏訪・辰野線、田中線の一部では自転車レーンの施工は可能かも知れないが、歩道を使う自転車道については道幅や街路樹がネックになる。
- 温暖な気候で道も広く坂が少ないため自転車利用が多いことが理解できる。また、地元と協議が整い青い色分けをしたところは、違法駐車が激減したとのことであり参考になった。
- 岡谷市は道が狭く、ゾーンを決められる道はほとんどないと思う。また、歩道内を走る場合や、車道と兼用になることがほとんどであり、ルール作りや、市内に自転車の細かな案内表示が必要と思われる。
- 自転車に気軽に乗れる街は理想であり、モデルコースなど観光施設をレンタル自転車でめぐする方法はどうか、また電気自動車のレンタルも考えてみてはどうか。
- 現地を視察したが、地域住民や沿道の企業に対して、整備の目的、内容、予定を掲載したビラを配布し周知にも取り組んでいる。整備後の普及啓発にも、府警察、自治会、通学区、市民の会、堺市の協働で、自転車安全利用キャンペーンを取り組んでおり、ハード面の整備と合わせて、こうしたソフト面の整備は欠かせない取り組みであると感じ、大変参考になった。
- 岡谷市においても、自動車、自転車等の混在利用の中、自転者事故の減少を目的にこうした計画的な整備は必要と強く感じた。また、推進のための組織体制も重要である。まず安全を基本に据えて、そこから観光や産業振興、エコ、健康づくり等に広がっていくのだと思う。大変良い視察ができた。
- 自転車レーンに青い色を付け区別しているが、視覚的に見やすく、安全に通行できる。岡谷市でも、道路幅員の余裕が課題となってくるが、高校通学路において、実験してみてはどうか。自転車のまちづくりは、安全や環境の改善に効果が期待できるものと思う。